

VI 令和7年度 九州地区研究大会報告

令和7年度九州地区盲学校教育研究会

1 大会概要

- (1) 大会主題 令和7年度九州地区盲学校教育研究会 佐賀大会
- (2) 期 日 令和7年11月14日(金)
- (3) 場 所 佐賀県立盲学校

2 内 容

- (1) 第1分科会「学習指導1・A文系」
 - ア テーマ「視覚障害のある幼児児童生徒の主体的な学びを支援する授業づくり」
 - イ 協議題
 - (ア) 授業改善に向けたチェックリストなどの活用について
 - (イ) 主体的な学びを支えるための授業の工夫について
- (2) 第2分科会「学習指導2・D実技系」
 - ア テーマ「視覚障害のある幼児児童生徒の主体的・対話的で深い学びに向けた指導の工夫」
 - イ 協議題
 - (ア) 生涯にわたってスポーツに親しむための指導のあり方について
 - (イ) コミュニケーションスキルを高める指導の工夫について
- (3) 第3分科会「生活」
 - ア テーマ「寄宿舎における自立支援と将来に向けた力の育成」
 - イ 協議題
 - (ア) 寄宿舎における食育の在り方とその実践的支援について
 - (イ) 寄宿舎における主体性を育む取り組みと課題
- (4) 第4分科会「特別支援」
 - ア テーマ「一人ひとりに応じた自立活動の内容について」
 - イ 協議題
 - (ア) 自立活動の指導内容の選択における現状と課題について
 - (イ) つながりのある自立活動のあり方について
- (5) 第5分科会「理療」
 - ア テーマ「新時代の理療教育における観点別評価の活用と授業改善
～これからの理療師に求められる資質・能力の育成方法について」
 - イ 協議題
 - (ア) 理療教育における観点別評価の効果的な実施方法と評価項目の設定について
 - (イ) 理療教育における多面的な能力の育成方法について

3 報 告

今年度は佐賀県立盲学校を会場に、公開授業・寄宿舎教育情報交流会が行われた後、分科会での研究発表、研究協議が行われた。本部会からは3名が第2、第3、第5分科会に出席した。第2分科会では「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した体育指導（フロアバレーボール）の工夫について発表され、生涯スポーツへの関心を高める成果があった一方、児童生徒の人数減少が課題として挙げられた。第3分科会は「寄宿舎における自立支援」をテーマに、食育を通じて望ましい食習慣と知識を深める実践報告がなされ、栄養教諭との連携や自治活動の継続の重要性が議論された。第5分科会は、理療教育において観点別評価を導入し、生徒の思考の可視化と臨床につながる学習意欲の向上を目指した授業改善の発表で、知識・技能と並行して、患者への説明責任を含むコミュニケーション能力の養成が重要であるという議論がなされた。

第59回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「長崎大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 「共生社会の中で多様な子供の可能性を引き出す特別支援教育の推進
～学びの連続性と学びの場の充実に向けて～」
- (2) 期 日 令和7年8月1日（金）
- (3) 場所（会場） アルカス SASEBO
(集合型とオンライン（オンデマンド）型のハイブリット形式)

2 内 容

- (1) 開会行事
- (2) 記念講演 演題「多様な子供へのキャリア発達支援と評価
～キャリアパスポートの活用を通して～」
講師 弘前大学大学院 教育学研究科教職実践専攻 教授 菊池 一文 氏
- (3) 分科会
- (4) 閉会行事

【分科会（全7分科会）】

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	各教科等の指導 (小学校段階)	学習内容の系統性や（他教科等との）関連性を踏まえた各教科別指導のあり方	佐賀県・大分県
2	各教科等の指導 (中学校・高等学校段階)	学習内容の系統性や（他教科等との）関連性を踏まえた各教科別指導のあり方	大分県・宮崎県
3	各教科等を 合わせた指導	一人一人の児童生徒の生きる力を育む各教科等を合わせた指導のあり方	宮崎県・鹿児島県
4	キャリア教育 ・進路指導	児童生徒がやりがいをもって自己のキャリアを形成し、主体的に自立と社会参加を目指すための進路指導のあり方について	鹿児島県・熊本県
5	自立活動	多様な教育的ニーズのある児童生徒の可能性を引き出す自立活動	熊本県・沖縄県
6	交流及び共同学習	共生社会の実現に向けて、相互に理解を深め合う交流及び共同学習のあり方	沖縄県・福岡県
7	発達障害への指導・支援	様々な学びの場における、個に応じた適切な指導・支援のあり方	福岡県・佐賀県

3 報 告

今年度の大会は、第36回長崎県特別支援教育研究会研究大会（誌上報告）との同時開催で、集合型とオンライン（オンライン）のハイブリット形式で開催された。記念講演では、キャリア発達の視点、キャリア発達の視点を踏まえた授業づくりと評価、「対話」をとおして学びをつなぎ、意味づけるためのキャリアパスポートについて講演をいただいた。また、第4分科会では、児童生徒がやりがいをもって自己のキャリアを形成し、主体的に自立と社会参加を目指すための進路指導のあり方について協議し、活発な意見交換がなされ大変参考になった。来年度の大会は、大分県で開催予定である。

第 62 回九州地区肢体不自由教育研究大会佐賀大会

1 大会概要

- (1) 大会の基本テーマ 「新しい時代の肢体不自由教育の充実を図る」
- (2) 開催期間 令和7年10月22日(水)から10月24日(金)まで
- (3) 開催会場 ホテルグランデはがくれ 佐賀県立金立特別支援学校

2 内容

- (1) 役員会及び記念講演等
 - ① 役員会：PTA 連合会 PTA 会長会 校長会
 - ② 記念講演
講師：社会福祉法人スプリングひびき 理事長 宮原 里美 氏
演題：「どんな時もコンセプトを大切に～それぞれのこちよいを目指して～」
 - ③ 文部科学省講話
講師：初等中等教育局視学官（併）特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野 和彦 氏
演題：「中央審議会の動向と肢体不自由のある子供の学びの充実」
 - ④ 学校公開 佐賀県立金立特別支援学校の学校紹介や授業の様子
- (2) 第1分科会～第7分科会

分科会	内容
第1分科会	教育課程・授業改善
第2分科会	学習指導（準ずる教育課程・下学年 / 知的代替の教育課程）
第3分科会	自立活動
第4分科会	情報教育・支援機器の活用
第5分科会	健康教育
第6分科会	PTA・地域との連携
第7分科会	生活指導・寄宿舎教育

- (3) ポスター発表
- (4) PTA 座談会

3 報告

役員会では、PTA 連合会、PTA 会長会、校長会、全体会が行われ、研究会の課題や今後の方向性等が話し合われた。令和8年度は福岡県北九州市で研究大会が開催される。

文部科学省講話では、「中央審議会の動向と肢体不自由のある子供の学びの充実」という演題で視学官兼特別支援教育調査官の菅野和彦氏が話をされた。特別支援教育の現状と課題では、「デジタル学習基盤の活用不足」、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」、教師が「深い学び」を実現する授業のイメージを掴み取りやすくすることが今後の課題であると話されていた。

記念講演では、宮原里美氏が、「どんな時もコンセプトを大切に～それぞれのこちよいを目指して～」という演題で、法人の取り組みや理念等を話された。法人が大切にしているという「利用者の目線に立ち、寄り添いを忘れないこと」「支援が支援を行う支援者側の都合に合わせられるような支援にならないこと」「利用者の方のこうしたいを叶えるためにその可能性を常に考えられる支援者であること」というお言葉は、教育者である私たちにも相通ずるものがあると感じた。

分科会は、7分科会に分かれ、それぞれのテーマ毎に提案者からの発表があり、質疑応答、協議の柱を中心とした協議、指導助言と続いた。第6分科会では、清武せいりゅう支援学校のPTAの取り組みが報告された。各分科会でそれぞれの学校の特色のある実践の発表があり、活発な議論が展開された。また、ポスター発表では、佐賀県内の特別支援学校から15本の発表が行われた。

令和7年度九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 大分大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「多様化する病弱虚弱教育の在り方を求めて～学びの場の充実に向けて～」
- (2) 期 日 令和7年8月21日(木)
- (3) 場 所 オンラインによる動画配信および研究協議

2 内 容

- (1) 開会行事・総会
 - ① 九病連理事長あいさつ
 - ② 祝辞ならびに来賓紹介
 - ③ 次年度開催県 九病連副理事長あいさつ
 - ④ 総会
- (2) 講演Ⅰ
 - 演題 「特別支援教育の動向と今後の病弱教育に求められるもの」
 - 講師 文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課調査官 深草 瑞世 氏
- (3) 講演Ⅱ
 - 演題 「こころの発達と自己肯定感に関する理解と支援」
 - 講師 大分大学 教育学部長・教育学研究科長 教授 佐藤 晋治 氏
- (4) 分科会

分科会名	提言校	指導助言者
①教科等の指導	北九州市立門司総合特別支援学校 大分県立別府支援学校 石垣原校	大分県教育庁特別支援教育課 指導主事 伊東 晃一 氏
②自立活動の指導	北九州市立小倉総合特別支援学校 宮崎県立赤江まつばら支援学校	大分県教育庁特別支援教育課 指導主事 首藤 武範 氏
③発表校設定 テーマ	長崎県立桜が丘特別支援学校 沖縄県立森川特別支援学校	大分県教育庁特別支援教育課 指導主事 桑野 稔 氏

3 報 告

講演Ⅰでは、「特別支援教育の動向と今後の病弱教育に求められるもの」の演題で、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課調査官の深草氏による講演が行われた。ICTの効果的な活用や病気療養児への支援など、特別支援学校のセンター的機能について多くの資料や統計等を示していただき、病弱教育の近年の動向や、課題とそれに対する取り組みについて理解することができた。

講演Ⅱでは、「こころの発達と自己肯定感に関する理解と支援」の演題で、大分大学 教育学部長・研究科長教授の佐藤氏による講演が行われた。自己肯定感に基づいて幼児童生徒それぞれの年齢におけるこころの発達の特性や、それに応じた大人の心構えや関わり方について学ぶことができた。

分科会では、教科等の指導、自立活動の指導、発表校設定テーマの3分科会に分かれて、職員それぞれが興味のある分科会に参加した。提言校の実践発表から、実態把握の仕方や指導・支援の方法、教材・教具等の工夫、学校全体での取り組みなどが示され、大変参考になった。分科会の後半にはブレイクアウトルームを作り各学校の意見を交換し、実情や取組等を知ることができ、大変有意義な時間となった。

第 53 回九州地区情緒障害教育研究会 大分大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「一人一人の教育的ニーズに応じた支援・指導のあり方」
- (2) 期 日 令和7年8月5日(火)
- (3) 場所(会場) J:COM ホルトホール大分(大分市金池南1丁目5番1号)

2 内 容

(1) 記念講演

演題 「温めれば、何度だってやり直せる」～やろまいよ、心のイノベーション～

講師 夏目 浩次氏(久遠チョコレート 代表)

(2) 分科会

第1分科会：自閉スペクトラム症(鹿児島県・熊本県)

提案者 岩村 真理子氏(鹿児島市立西陵小学校)

司会者 山下 操士氏(鹿児島市立山下小学校)

「一人一人の教育的ニーズに応じた支援・指導のあり方」

～児童への個別支援と校内支援体制の充実～

提案者 山下 彩氏(熊本市立東部中学校)

司会者 佐々木 智佳氏(熊本市立藤園中学校)

「『聴く』から始まる子どもも大人もわくわくする学びの創造」

～ともに育つ通級指導～

指導助言者 原 かおり氏(医療法人謙誠会博愛病院 小児精神科医)

第2分科会：LD,ADHD(沖縄県・福岡県)

提案者 与那覇 明江氏(宮古島市立鏡原小学校)

司会者 堀田 万紀子氏(宮古島市立下地小学校)

「ADHD/LDにおける指導について」

提案者 蓑田 大翼氏(北九州市立高蔵小学校)

司会者 鳥越 泰子氏(北九州市立田原小学校)

「『苦手なこと』に向き合う指導」

～通級による指導での実践～

指導助言者 井上 賞子氏(島根県松江市立島根小学校 教諭)

3 報 告

記念講演は、大会実行委員との対談形式で実施。障がい者雇用と低賃金からの脱却を目指してパン工房を開業し、より多くの雇用を生み出すために久遠チョコレートを立ち上げるまでのいきさつを語られた。誰もが活躍し、輝ける社会の実現に向けての熱い思いを感じることができた講演であった。

第2分科会(LD/ADHD)では、沖縄県の与那覇明江教諭による「感情ワーク」の実践方法や福岡県の蓑田大翼氏による「苦手なことに向き合うための指導」についての実践事例等を紹介していただいた。両先生とも、児童のアセスメントをしっかり行い、それに基づいて様々な角度からアプローチを行っていることがうかがえ、大変参考になった。

後半のミニ講座では、井上賞子氏により「できるのにやらない」行動の裏に隠れている学びにくさについて、事例をもとに詳しく説明していただき、とても勉強になった。

第49回 九州地区難聴・言語障害教育研究会（熊本大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「これからの難聴・言語障がい教育のあり方を考える」
～子どもや保護者のニーズに応じる支援や連携をめざして～
- (2) 期 日 令和7年8月7日（木）・8日（金）
- (3) 場所（会場） 市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）、熊本市国際交流会館

2 内 容

- (1) 記念講演 『難聴・言語障害教育において大切にしたい視点－「今ここ」、そして「生きるかたち」－』
講師 阿部 厚仁 先生（東京都世田谷区立烏山北小学校 きこえとことばの教室 主任教諭）
演題『子どものことばをはぐくむために －「きこえとことばの教室」が教えてくれたこと－』
- (2) 分科会（敬称略）
- ① 第1分科会「構音」
【助言・ミニレクチャー】こぞの言葉のクリニック 代表・言語聴覚士 小菌 真知子
【提案】長崎県 平戸市立紐差小学校 教諭 末永 悦子
宮崎県 日南市立南郷小学校 教諭 上村 聡子
- ② 第2分科会「吃音」
【助言・ミニレクチャー】九州大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科助教 菊池 良和
【提案】沖縄県 名護市立屋部小学校 教諭 當山 泰子
大分県 大分市立日隈小学校 講師 伊藤 英二
- ③ 第3分科会「言語発達」
【助言・ミニレクチャー】熊本保健科学大学リハビリテーション学科言語聴覚学専攻教授 井崎 基博
【提案】熊本県 熊本市立硯台幼稚園 教諭 西口 武宏
鹿児島県 薩摩川内市立亀山小学校 木原 美奈
- ④ 第4分科会「聴覚」
【助言・ミニレクチャー】長崎県立ろう学校校長 坂本 志子
【提案】佐賀県 嬉野市立吉田小学校 岡 知子
福岡県 福岡市立壱岐東小学校 片山 好美

3 報 告

「これからの難聴・言語障がい教育の在り方を考える」をテーマに、研究会が開催された。記念講演では阿部厚仁先生が「心を紡ぐ大切さ」と「専門性の追求」を語り、支援の質を高めるためのヒントが共有された。

分科会に関しては、昨年度までの5つから、4つに編成され、無くなった「連携」は、全分科会で取り上げることになった。本県からは第1分科会で上田聡子教諭が「児童が学習意欲を持続することができる構音指導を目指して」という題で具体的な実践報告を行い、助言者の言語聴覚士小菌真知子先生からは、「きめ細やかな指導を丁寧に記録してある発表」と高く評価された。

協議では、九州各県の就学前システムや連携方法について意見交換が行われ、有意義な話し合いとなった。さらに、助言者によるミニレクチャーでは、構音障がいの評価について、発音だけでなく全体を評価することの大切さが分かりやすく伝えられた。大会を通じて連携と専門性の重要性が再確認され、多様な支援体制構築のための知見が得られた。